

類像性と結果補語

秋 山 淳

目 次

- 0. 問題の所在
- 1. 先行研究－(石村 2000、2008、2011、2016)
- 2. ヴォイス転換－後項動詞“R”の他動詞化(石村 2000)
- 3. “R”のヴォイス転換の問題点
 - 3.1. “R”が他動詞のVR他動詞構文の存在。
 - 3.2. 「使役」の意味に解釈されないVR他動詞構文
 - 3.2.1. “R”がアスペクトを表すVR他動詞構文
 - 3.2.2. Vの動作主である主語の変化を表すVR他動詞構文
 - 3.3. 「使役」と「非使役」の何れにも解釈可能なVR他動詞構文の存在①
 - 3.4. 「使役」と「非使役」の何れにも解釈可能なVR他動詞構文の存在②
- 4. 時間から因果へのメタファー
- 5. まとめ

0. 問題の所在

中国語では仕手の何らかの働きかけが受け手の状態変化を引き起こすことを表現する手段として結果補語がある：

(1) 日本人很会打人，但是打破了我的身体，打断了我的骨头，可打不改我的心。[四世同堂]¹⁾

(2) 他也照例的帮人撑着航船，每日一回，早晨从鲁镇进城，傍晚又回到鲁镇，因此很知道些时事：例如什么地方，雷公劈死了蜈蚣精；[风波]

(3) 武松打死老虎。「武松が虎を殴り殺した」。

(3)では“打死”の前項動詞“打”は原因であり、後項動詞“死”は結果であると解釈される(以下前項動詞を“V”、後項動詞を“R”とする)。つまり“武松”の“打”という動作行為が、“老虎”を“死”という状態に変化させるという「使役」の意味に解釈される。では、なぜ個々の動詞“打”や“死”は使役の意味を持たないのに、並列させた“打死”の形式を持つ他動詞構文(3)が使役義に解釈されるのだろうか？本稿ではそのような問題意識を手がかりに、拙稿(2012、2013等)の研究成果を整理し、中国語の動詞＋結果補語を持つ“S＋V＋R＋O”が使役義を表す仕組みについて、石村(2000、2008、2011)を参考に明らかにすることを目指すものである。²⁾³⁾

1. 先行研究－石村(2000、2008、2011、2016)

中国語の“V＋R”他動詞構文が使役義を持つ仕組みについて明らかにしてきた研究に、石村(2000、2008、2011、2016)がある。石村(2000)は管見では中国語の動詞＋結果補語を持ついわゆるVR他動詞構文が使役義を獲得する仕組みについて最も詳細に明らかにしようと試みた最初の研究であると思われる(以下VR他動詞構文とする)。その中で、上記のようなVR他動詞構文について先行研究では次の二点が指摘されていること

を述べている：

(i) 前項“V”は動作行為に重点があり、その動作行為の結果の達成までは含意されていない。

(ii) 後項“R”は<非意志性>を意味特徴とする自動詞及び形容詞である。

つまり、“V”と“R”は単独としては語彙的な使役(causative)の意味を含んでいないにもかかわらず、“VR”に複合化すると、(3)は「虎を(殴って)死に至らせる=殺す」となり、使役他動詞と同じ意味機能が備わっていると考えることが出来る。しかし、この使役(causative)の意味がどこから生じているのかについては、先行研究では述べられていないという。

そこで、石村(2000)では、(1)～(3)の“VR”が使役義を獲得する仕組みについて、“R”のヴォイス転換という仕組みを提案した。⁴⁾

2. ヴォイス転換—後項動詞“R”の他動詞化(石村2000)

石村(2000、2008、2011、2016)の中国語の結果構文に関する一連の研究で、後項動詞“R”の他動詞化というヴォイス転換を最初に提案したのは石村(2000)である。その中で、“V”と“R”の複合化が使役他動詞と同じ意味機能を獲得する仕組みについて次のように考察する。

まず、使役(causative)の意味を次のように想定する：

(4) 原因事象 (causing event)	結果事象 (caused event)	
EVENT1	CAUSE	EVENT2

たとえば、(5)と(6)の“VR”他動詞構文は(7)と(8)のような原因事象と結果事象からなるものである。しかし、それをそのまま合成させると、(9)と(10)のような非文になる。そこで“书皮儿破了”「本の表紙が破れた」を“破了书皮儿”に、“椅子翻了”「椅子がひっくり返った」を“翻了椅子”に換えねばならない。⁵⁾この一連のプロセスは(11)に示される。

(5) 孩子撕破了书皮儿。「子供が本の表紙を引き裂いた」

(6) 他踢翻了椅子。「彼は椅子を蹴ってひっくり返した」

(7) “孩子撕书皮儿”(原因事象) CAUSE “书皮儿破了”(結果事象)

(8) “他踢椅子”(原因事象) CAUSE “椅子翻了”(結果事象)

(9)* 孩子撕书皮儿破了。

(10)* 他踢椅子翻了。

(11) ヴォイス転換—後項動詞“R”の他動詞化(石村2000:145-146)⁶⁾

EVENT1 EVENT2

孩子 斯破了 书皮儿。

↓①語順の逆転による複合化

②語彙的使役機能の獲得

①の複合現象と②の語彙的使役機能の獲得は「“R”のヴォイス転換」という観点から互いに連動したものと捉える事が可能となる。

(12) “R”のヴォイス転換

後項動詞の使役他動詞化(他動詞化)は前項動詞の導入を受ける

y R → x VR y

*x R y[xは使役主(原因主)、yは対象を示す]。

一項動詞である“R”は現代中国語では既に使役義を失っているために、そのまま単独で他動詞に転換することは出来ない。したがって、“R”が語彙的使役義を受けるために、その前に変化を引き起こす原因ないし働きかけとなる要素“V”を導入しなければならない。

(13)* 他断了树枝→他折断了树枝。「彼は枝を折った」

(14)* 我红了头发→我染红了头发。「私は髪の毛を赤く染めた」

(15)* 她干净了杯子→她擦干净了杯子。「彼女はコップをきれいに拭いた」

(13)～(15)の“R”に相当する“断”、“红”、“干净”はそのまま他動詞に転換することは不可能であるので、その前にそれぞれ“折”、“染”、“擦”を付加すると、“V”と“R”が複合化され、文が成立することとなる。

これらにより、石村(2000)は、“V”と“R”が複合化する動機は、“R”がヴォイス転換することであり、それにより、“VR”が語彙的な使役義を獲得していることを提案している。

3. “R”のヴォイス転換の問題点

上記で考察した石村(2000)の“R”のヴォイス転換はVR他動詞構文が使役義を獲得するために提案されたものである。しかし、この提案が妥当かどうか用例を基に検討してみよう。

3.1. “R”が他動詞の“VR”他動詞構文

2節で考察した石村(2000)の“R”のヴォイス転換は(12)で示されたように、“R”が形容詞または非意図的な自動詞であるという基盤に立ったものである。つまり、“R”が他動詞である例は想定していない。しかし、コーパスを調べてみると、“R”が他動詞のVR他動詞構文の存在が確認される。

(16) 有一次为躲避敌机轰炸，他跑丢了鞋子，是志愿军一位战士送给他一双新鞋。「あるとき敵機の爆撃を逃れるために、彼は逃げている間に靴をなくしたので、志願軍の一人の兵士が彼に新しい靴をくれた」
[人民日报1994]

(17) 他玩忘了自己的职责。「彼は遊んでいて、自分の職責を忘れた」⁷⁾

(18) 他丢了鞋子。「彼は靴をなくした」

(19) 他忘了自己的职责。「彼は自分の職責を忘れた」

(16)の“R”の“丢”、(17)の“忘”は他動詞である。石村(2000)が提案した“R”のヴォイス転換では、“R”(V2)が非意図的な自動詞または形容詞であるために、単独では目的語を取ることが出来ないため、“V”を前に付加することで“VR”を他動詞化するということであった。ところが、(16)と(17)では“R”が他動詞であるにもかかわらず、“V”が付加されている。このことから、“V”と“R”の複合化は“R”を他動詞化するためではないと考えられる。また、RがVのアスペクトを表すもの、“VR”他動詞構文が主語の状態変化を表すものも存在する。

3.2. 「使役」の意味に解釈されないVR他動詞構文

3.2.1. “R”がアスペクトを表すVR他動詞構文

(20) 尤其她总是边说话边鞠躬，好像在拉票的候选人。我只能怪我生长在礼仪之邦，不得不遵守“来而无往非礼也”的古训。但是今天鞠了那么多躬，明天起床後会不会腰酸背痛呢？今天是我认识第一个日本人的日子，志之。我看完了9/10的日记，又回忆起第一次遇见AmeKo的模样，忍不住笑了起来。之後写的东西很杂乱，也很懒，有时一个星期内发生的事只写下：『嗯没事发生。即使有，我也不记得。无法让我记得的事，一定不重要。』我又笑了一会，才准备写下今天的日记。「…私は10月9日の日記を読み終えた…」[雨衣]

(21) 不过第二连的官兵也异常勇猛，见到湘军即将攻至山顶，不再装填子弹，直接抓起手榴弹拼命往下扔。在一片砾石和弹片之后，三个突击队都死伤累累，被鄂军压制着不能向上进攻，湘军便使出他们的得意套路，拼命投掷红色的小手榴弹。双方对拼手榴弹的结果就是同样都伤亡惨重。不过湘军很快就扔完了他们携带的手榴弹，被压制得抬不起头。一些湘军发挥出无比的勇气，提着成箱的手榴弹，在弹雨中气喘吁吁地送上火线，湘军得到手榴弹的支援，士气大振，投掷了两轮手榴弹之后，高叫着冲上山顶。见前

军进攻得头，后继的湘军也不客气，他们竟摆开了三个营方阵，各自沿着三个突击队前沿的阵地出发。

「…けれども湘軍は素早く携帯している手榴弾を投げ終え…」[长风]

(22) 这时父亲问他：“洗完了？”「この時父は彼に尋ねた：『洗い終わったか？』」

(23) 刚才我看见他了「今し方彼を見かけた」

(20)-(22) の“R”はVの動作行為が終了したことを表すアスペクト動詞の“完”であり、いうまでもなく「使役」の意味を表さない。

(23) のVは他動詞の“看”であり、Rの“見”は「(視覚・聴覚・味覚などを)感じ取る」ことを表すものであり、したがって、VR“看见”は(20)-(22)と同じく、主語の“我”や目的語の“他”の状態変化を表さない。

3.2.2.Vの動作主である主語の変化を表すVR他動詞構文

VR他動詞構文でも、主語の変化を表すと解釈できる場合も存在する：

(24) 外面没有人玩我们就在自己家里玩，院子虽然很小，但也足够我们姐弟五个闹腾。我们踢累了毽子就砸沙包，砸够了沙包就跳绳，玩厌了跳绳就捉迷藏。这样一圈玩下来，一天的时间也就折腾的差不多了。「外には遊んでいる人がいないので私たちは家で遊んだ。庭は小さいけれども、私たち5人兄弟が騒ぐには十分であった。毛羽を蹴り疲れるとサンドバックを叩き、十分に叩くと縄跳びをし、縄跳びに遊び飽きるとかくれんぼをした。このように一通り遊ぶと、一日の時間も殆どそうして過ごした」

(25) 阿布拉揪累了猫头鹰的毛，看天看地就是不去看自己的这一对父母。太丢人了……尤其是他的父亲，每天把欺负小伊莲当做必做的事情，难怪小伊莲经常张口就咬他呢……【郁闷的阿布】「アブラはミミズクの毛をつかみ疲れたので、自分の両親を面倒見に行かなかった。全くの恥かきだ…とりわけ彼の父親は、毎日エイリンをいじめることを必ずすべきことと見なしている。どおりでエイリンがよく口を開いて彼にかみついている」

(26) 听累了摇滚～ 欣赏下绘画吧。。。Jan VanMechelen「ロックを聴き疲れたら～絵画を鑑賞しましょう」

(22)～(24)のVは主語の行為や知覚を表し、その外項が文の主語になり、内項が文の目的語になっている。R(V2)は目的語の状態変化を表すのではなく、主語のネガティブな心理的な感覚を述べたものであり(熊学亮・魏薇2014)、主語は経験者(experiencer)、目的語は被経験体(experienced)に解釈される(Friedrich Ungerer・Hans-Jörg Schmid 2006)。

3.3.「使役」と「非使役」の何れにも解釈可能なVR他動詞構文の存在①

先行研究で指摘されているように、VRが“追累”の他動詞構文は複数の解釈が可能である(沈家煊2004、熊学亮・魏薇2014)：

(27) 张三追累了李四。

- a. 「張三が李四を追いかけ、李四が疲れた」(使役義)
- b. 「張三が李四を追いかけ、張三が疲れた」(非使役義)
- c. 「李四が張三を追いかけ、李四が疲れた」(使役義)

沈家煊2004、熊学亮・魏薇2014などでも指摘されているように、(27)はaのように主語が目的語の状態を変化させるという使役義に解釈される他に、bのように、主語の目的語に対する行為が主語自身の状態を変化させるという非使役義にも解釈が可能である。また、(28)の“追累”他動詞文は主語が「疲れた」としか解釈されない

(28) (你们)追累了大团？那换个口味追小新团吧。⁸⁾「ビッググループを追いかけるのに疲れましたか？では嗜好を換えて新しいグループを追いかけてみたら」

(27)ではVR“追累”が使役と非使役の何れにも解釈可能であるが、(28)では、非使役に解釈される。この事実を考えると、VとRの複合化は使役義を獲得するためであるとは考えにくい。

3.4. 「使役」と「非使役」の何れにも解釈可能な VR 他動詞構文の存在②

(29) と (30) は何れも“VR”が“揪累”の他動詞構文であるが、主語と目的語の違いにより、解釈が異なる。

(29) アブラ揪累了猫头鹰的毛，看天看地就是不去看自己的这一对父母。太丢人了……尤其是他的父亲，每天把欺负小伊莲当做必做的事情，难怪小伊莲经常张口就咬他呢……【郁闷的阿布】「アブラはミミズクの毛をつかみ疲れたので、自分の両親を面倒見に行かなかった。全くの恥かきだ…とりわけ彼の父親は、毎日エイリンをいじめることを必ずすべきことと見なしている。どおりでエイリンがよく口を開いて彼にかみついている」(= (25))

(30) 在一天天的焦虑等待中，他开始明白为什么那次她会因为他的一次迟到而泪如雨下，等待中的担心和焦灼，无法控制的胡思乱想，揪累了她的心，他才懂得傻丫头是多么的在乎他!!! 有多辛苦，额头上的汗珠凝结里她觉得幸福!!!【李洛& 骆 木般 - 城市里一则未完成的故事】「一日一日やきもきして待つ中、彼はなぜあの時に彼女が彼の一度の遅刻で激しく涙を流し、待っている間に心配したり、気をもんだりして、制御できない妄想が彼女の心を(掴んで)疲れさせたことを理解し始めた、彼はようやくおばかさんが彼のことをこんなにも気にかけていることがわかった」

(29) と (30) では同じ“VR”であっても、主語と目的語が異なれば、解釈が異なることを示している。(29) は既に述べたように、V は主語の行為を、R は主語の身体的感覚の変化を表していると解釈されるのに対し、(30) は、人ではなく何らかの出来事や自然力などが主語になり、その結果、目的語である人の身体などが心理的または身体的な変化を経験するという使役事象に解釈される。特に、(29) と (30) は“揪累”の他動詞型結果構文であるが、この同じ V と R の組み合わせであっても、主語や目的語の名詞句の違いにより、使役義と非使役義の解釈の違いが生じている。

このように、“V”と“R”の複合化は、“R”が他動詞のものが存在すること、“VR”他動詞構文が「使役」に解釈されないものも存在することから、石村(2000)で提案された“V”と“R”の複合化は“R”の他動詞化のためではないと考えることができる。次節では、石村(2000)での提案に対し、修正案を提示することを試みる。

4. 時間から因果へのメタファー

ここでは石村(2000)では注目されなかった時間に注目してみたい。Bernd Heine et al. (1991)によれば、接続詞 since は時間表示から因果含意を持つ時間標示を経て、純粋な因果標示への推移を例示している。⁹⁾

(31) I have done quite a bit of writing since we last met. (時間)

(32) Since Susan left him, John has been very miserable. (時間/因果)

(33) Since you are not coming with me, I will have to go. (因果)

時間表現からこの因果推量に基づけば、Time から Cause へのメタファーが生じる。つまり、時間における事象の連続から因果関係へと比喩的に拡張されるのである。一度「先に起きることが後に起きることの原因である」という意味が慣習化されると結果的に TIME から CAUSE へと「抽象的」なカテゴリーに転移されるのである。

中国語を見てみると、中国語は二つの統語単位の間相対的な語順は概念世界で表示する状態の時間順序に決められることが、Tai (1985,1993) で指摘されている。

(34) 文連続

我吃过饭，你再打电话给我。「私が食事してから電話下さい」

S1

S2

(35) 述部連続

我吃过饭再打电话给你。「食事を済ませてから電話します」

P1 P2

(36) 動詞フレーズ連続

张三上楼睡觉。「張三は二階に上がって寝る／二階に上がって寝る」

上記の例だけでなく、動詞の連続も同様に時間順序に従う。

動詞の連続に関して、張麗麗 (2003) では Tai (1985) の分析に基づき、類像性 (iconicity) の観点から詳細な分析を行っている。それによれば、時間順序の原則 (iconicity) に従う動詞の連続には修飾構造と述補構造の二タイプがあるという (張麗麗 2003: 8-9)¹⁰⁾

(37) 修飾構造: “偷看”「こっそり見る」、「抢答」「(質問に) 先を争って答える」、「改搭」「(次の便に) 乗る」、「加买」「買い足す」、「翻阅」「(文書や書籍に) 目を通す」、「签收」「受け取りの署名・サインをする」など。

(38) 述補構造: “走出”「歩き出す」、「拿起」「持ち上げる」、「带有」「～を持っている」、「求得」「～を実現・達成することを求める」、「哭湿」「泣きぬらす」、「骑累」「乗り疲れる」など。

(39) 除了客观反映白天发生在特别医院的事外, 就是罗啸强的“忏悔”。“忏悔”时, 他用反语讲述了自己被爱情和探险事业“迷惑”的故事, 还故作沉痛状。头两天至少有 20 多个修女偷看了“特别节目”。她们情绪骚动时, 又求助于“黑蔷薇”。悬崖上的积雪越积越厚, 雪崩在即。九早课时, 安安和施若秋扶着嬷嬷走进教堂。嬷嬷决定从自愿报名者中挑选看护。[UN\ 中国科幻银河奖作品]

(40) 在这口外的草原上除了像草上飘、一线红这样势力较大, 有固定的窝子的马匪之外, 其它的更多则是终日骑在马上, 一年到飘浮不定的人数百人至数百人的马匪。这些马匪的都是极其重视马匹, 出发时, 除每人一骑外, 还带有大批空马; 每过一地, 见到马群必劫掠而去。对他们来说, 马匹既是交通工具, 又是给养。他们长途跋涉, 骑累了一匹马, 再换一匹; 途中休息时, 将跑不动的马杀掉, 在火上烤熟后, 半生不熟地吃掉, 再饮上一罐冻水, 便又出发; 这样, 一昼夜间, 可奔袭千里, 使官兵百姓猝不及防。[无语的命运\ 小市民的奋斗]

張麗麗 (2003) の分析から、前項動詞 (V1) と後項動詞 (V2) に主語の動作行為を表す動詞を配列させた場合、V1 (“偷”) が修飾、V2 (“看”) が被修飾または目的に解釈されるのに対し、V1 に動作行為を表す動詞 (“骑”)、V2 に非意志性を意味特徴とする自動詞または形容詞を配列させた場合、時間から因果関係へのメタファーから、V1 が「原因」に、V2 が「結果 (R)」に解釈されると考えられる。たとえば、

(41) 一听这话我刚擦干净脸眼泪又下来了, 他也在身旁蹲下来, 捂着脸呜呜地哭上了。[活着]

(42) 日本人打伤了他的好友, 也打碎了他自己的心。[四世同堂]

(41) の“擦” (V1) と“干净” (V2)、(42) の“打” (V1) と“伤” (V2) は時間順序に従って言語化されており、どちらも V1 が V2 より先に生じている。^{11) 12)}

(43) V1 V2 V R
 “擦” “干净” ⇒ “擦” “干净”
 -----> t -----> t

(44) V1 V2 V R
 “打” “伤” ⇒ “打” “伤”
 -----> t -----> t

中国語は“V1”と“V2”の複合化において、動作行為を表す動詞 V1 が時間的に先に生じ、非意志性を意味特徴とする自動詞または形容詞が後に生じることにより、時間関係から因果関係のメタファーにより、V1 が原因、V2 が結果 (R) であると解釈されるのである (申亜敏・望月圭子 2009 にも同様な指摘がある)。

5. まとめ

中国語の“VR”の使役義 (causative) の獲得は、後項動詞 R のヴォイス転換によるものではない。“V1 +

V2”は Bernd Heine et al. (1991) で指摘されたように、時間推移から原因（時間的に先に生じる事象がその後起きる事象の原因である）を適用することで因果関係が類推される。但し、VR 他動詞構文が「使役」の意味 (causative) を持つと解釈されるかどうかは構文からは解釈できず、VR の動詞や形容詞の意味と主語や目的語に現れる名詞句の意味との関係（フレーム意味論）から解釈されるという必要があると考える（(29) と (30)）。¹³⁾ つまり “S + V1 + V2 + O” 構文は、英語の結果構文のような「S の目的語に対する動作行為 (V1) が目的語 (O) の状態変化 (V2) を引き起こす」という意味を構文として持っておらず、V1 に動作行為を表す動詞が、V2 に非意志性を意味特徴とする自動詞または形容詞が配列されることにより、因果関係が比喩的に解釈されるのである (“S + V + R + O”)。ただ、VR が表す「変化」を被るのが主語なのか目的語なのかは構文では決定されないのである。

(45) 张三追累了李四。「張三が李四を追いかけ、張三が疲れた / 李四が疲れた」(非使役義 / 使役義)

(46) (你们) 追累了大团？那换个口味追小新团吧。

「ビッググループを追いかけるのに疲れませんか？では嗜好を換えて新しいグループを追いかけてみたら」(非使役義)

(47) 其实早在几十年前，这首歌就已经震撼过万千观众的心，作为电影《小花》的主题曲，《绒花》早已唱红大江南北，…

「…映画『小花』の主題曲として、『绒花』は中国全土でヒットし、…」¹⁴⁾ (非使役義)

(48) 曾经，女高音歌唱家喻宜萱的《康定情歌》唱红了康定，…

「かつてソプラノ歌手喻宜萱の『康定情歌』で康定に人が集まり、…」¹⁵⁾ (使役義)

ただし秋山 (2017) における VR が“唱红”の他動詞構文の 285 の用例では、人が曲を歌うことでその曲を流行らせたという「使役」の意味に解釈できるタイプが 142 例あり、全体の 50% を占めている。Goldberg (1995) は「基本的な文タイプに対応する構文は人間の経験に基本的である中心的な意味の事象タイプとしてエンコードされる」と指摘しており、VR 他動詞構文が表すのは主語である人などの何らかの動作行為が目的語である人やモノの状態を変化させるという「使役」の意味 (causative) がプロトタイプであると考えられる。

<注>

1) 例文是北京語言大学の BCC、北京大学の CCL と他の論文の用例から引用したものである。

2) S = 主語、V1 = 前項動詞、V2 = 後項動詞、R = 結果、O = 目的語

3) 石村広 (2000) 「中国語結果構文の意味とヴォイス」『中国語学』第 247 号、日本中国語学会、pp142-157、石村広 (2008) 『中国語の結果構文に関する研究：VR 構文の意味構造とヴォイス』東北大学。大学院文学研究科言語科学専攻 (博士論文)、石村広 (2011) 『中国語結果構文の研究－動詞連続構造の観点から－』。東京：白帝社、石村広 (2016) 「动结式的致使意义和使动用法的双音化」『当代语言学』vol.18.3.pp339-353。

4) 石村 (2000) で提案された“V2”のヴォイス転換は、以降の論文でも一貫して主張されている。

5) “破了书皮儿”や“翻了椅子”はこのままの語順では現代中国語では成立しない。

6) 石村 (2000) に従い、後項動詞を R (result) で表記する。

7) 王怡人 (2005) からの用例。

8) <http://yule.sohu.com/20161028/n471698046.shtml>2018/1/10 参照。

9) Bernd Heine et al (1991) を参照。

10) 述補構造は本稿では動詞+結果補語 (“VR”) と表記している。

11) 井上 (2012, p7) では、中国語の動詞には時間の要素が内包されていないために、V1 と V2 を組み合わせて時間の流れを作る形で変化を叙述すると述べている。

12) 梁銀峰 (2006, p333) でも連動構文 (Vt + Vt + O) における二つの動詞の意味関係が時間の前後の関係から論理的な因果関係へと変わっていったと指摘されている。

13) フレーム意味論については辻幸夫編 (2013)、Croft&Cruse (2004)、Boas Hans S. (2003)、Goldberg (1995) を参照。

14) <http://media.people.com.cn/n1/2018/0111/c14677-29759598.html> 2018/1/10 参照

15) <http://culture.people.com.cn/n1/2017/0206/c22219-29059994.html> 2018/1/10 参照

<参考文献>

- 秋山淳 2007 「中国語の変化の表現」第 55 回九州中国学会発表レジュメ
- 秋山淳 2012 「中国語教育において、予め整理しておくべきこと—結果補語をモデルとして—」『西南学院大学言語教育センター紀要』第 1 号 3-14
- 秋山淳 2013 「非使役義を表す結果補語について」『西南学院大学言語教育センター紀要』第 3 号 15-19
- 秋山淳 2014 「推移と VR の捉え方」『西南学院大学言語教育センター紀要』第 4 号 1-14
- 秋山淳 2016 「結果を表す動補構造の記号化と意味機能」『下関市立大学論集』第 59 巻 第 3 号
- 秋山淳 2017 「コーパスに基づく他動詞型結果構文の認知言語学的分析—“唱紅”を一例として—」第 65 回九州中国学会発表レジュメ
- 井上優 2012 「テンスの有無と事象の叙述形式—日本語と中国語の対照研究」『日中理論言語学の新展望—②—意味と構文』影山太郎・沈力編 くらしお出版社 1-26
- 石村広 2000 「中国語結果構文の意味構造とヴォイス」『中国語学』第 247 号, 日本中国語学会, pp.142-158
- 石村広 2008 『中国語の結果構文に関する研究: VR 構文の意味構造とヴォイス』東北大学大学院文学研究科言語科学専攻(博士論文)
- 石村広 2011 『中国語結果構文の研究—動詞連続の観点から』白帝社
- 石村広 2016 「動結式的致使意味と使動用法」『当代语言学』vol.18,no.3.pp.339-353
- 木村英樹 2012 『中国語文法の意味とカタチ—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』白帝社
- 木村英樹 2014 「“指称”の機能—概念、実体及び有標化の観点から—」『中国語学』第 261 号, 日本中国語学会, 64-83
- 申亜敏・望月圭子 2009 「中国語の結果複合動詞—日本語の結果複合動詞・英語結果構文との比較から」, 小野尚之編『結果構文のタイポロジー』407-510. ひつじ書房
- 辻幸夫編 2013 『新編 認知言語学キーワード事典』研究社
- 山梨正明 2009 『認知構文論—文法のゲシュタルト性』大修館書店
- 楊明 2013 『結果構式的認知語義研究—以中、日、英為例』知識産權出版社
- 陳慶華 2011 「論主動賓句把字句及被字句的迷思—從主觀性, 影響性談起」『華語詞彙與語法(華語教學專輯 01)』
- 梁銀峰 2006 『汉语动补结构的产生与演变』学林出版社
- 沈家煊 2004 「动结式追累的语法和语义」『语言科学』6.3-15.
- 施春宏 2008 『汉语动结式的句法语义研究』北京语言大学出版社
- 石毓智 2003 『现代汉语语法系统的建立—动补结构的产生及其影响』北京语言大学出版社
- 熊学亮 魏薇 2014 「“NP V 累了 NP” 动结式的补语趋向解读」『外语教学理论与实践(FLLTP)』2
- 張麗麗 2003 「動詞複合與象似性」『語言暨語言學』4.1. pp1-27
- Bernd Heine, Ulrika Claudi and Friederike Hünemeyer. 1991 Grammaticalization A Conceptual Framework The University of Chicago Press Chicago and London
- Boas, Hans C. 2003. A Constructional Approaches to Resultatives (Stanford Monograph in Linguistics). Stanford California: Center for the study of Language and information. Amsterdam/Philadelphia: John benjamins.
- Croft Williams and Cruse D. Alan 2004. Cognitive Linguistics. Cambridge.
- Goldberg, A. 1995 Constructions, University of Chicago Press, Chicago. (河上誓作 / 早瀬尚子 / 谷口一美 / 掘田優子訳 2001 『構文文法』研究社)
- Langacker, Ronald W. 2008. Cognitive Grammar: A Basic Introduction Oxford
- Suzuki, Takeo. 2014. A Cross-Linguistic Exploration into the Semantics of English, Japanese and Mandarin Resultatives. Gendai Toshio.
- Tai, James. 1984 “Verbs and Times in Chinese: Vendler’s Four Categories,” *Papers from the Parasession on Lexical Semantics*, 289-96. Chicago Linguistic Society.
- Tai James H-Y. 1985 Temporal Sequence and Chinese Word Order Iconicity in Syntax: *Proceedings of a symposium on iconicity in syntax*, Stanford, Edited by John Haiman (1988. 戴浩一. “時間順序和漢語的語序”, 『國外語言學』第一期, 黃河(譯), 10-20)
- Tai, James H-Y. 1993 “Iconicity: Motivations in Chinese Grammar.” *Principles and Prediction: The Analysis of Natural Language*, Mushira Eid and Gregory Iverson, eds., Amsterdam: John Benjamins Publishing Company, 153-174.
- Tai James H-Y. 2003 Cognitive Relativism: Resultative Construction in *Chinese Language and Linguistics* 4.2, 301-316

Tai James H-Y.2005 Conceptual Structure and Conceptualization in *Chinese.Language and Linguistics*6.4,539-574

Ungerer Friedrich and Schmid Hans-Jorg2006.An Introduction To Cognitive Linguistics.Second Edition.PEARSON
Longman

付記 執筆に際し貴重なご意見をくださった本学の馬叢慧先生に感謝いたします。